

ユーザー探訪

株式会社 プラスパ (埼玉県草加市)

代表取締役 北野 榮市 様

動態管理、位置管理でドライバーの負荷軽減

正確な情報で社内一体感の確立



北野 榮市 代表取締役



不慮の事故等があった場合、荷主に対して「・・・かもしれない」の説明だけで、事故の状況を荷主が納得するとは思わないと常に考えておりました。荷主に対する責任を果たすということは、事故を事前に防止することであるということ、会社の取り組む課題として事故防止の努力を重ねて来ております。

事故防止には、トラックの運行を的確に管理すること、管理を通してドライバーの安全意識を高めることをテーマとして取り組んで来ました。いろいろ検討を重ね、「Locoもび」(NAISロケーションシステムズ社)に、データ・テックの動態管理用車載端末「i-GPS」を繋げることでシステムの構築を進めました。そのきっかけは、Web上で位置がみられる、トラックの位置確認のための携帯電話の利用が減るところにありました。

「いざというとき、車がどこにあるか」を把握して、緻密な配車計画をたてることができれば、次の日ドライバーに指示する内容を正確に把握できるのではと考えました。

同時に、配車する際、いちいちドライバに電話して確認しなくても済むということも評価しました。導入当初は、位置情報の取れていない現象がありましたが、車載機、携帯電話、サーバーソフトの担当が対処して問題を解決しました。導入した動態管理、位置管理のシステムにより本社で居ながらにしてトラック運行状況のチェックが可能となりました。その結果、運転手の「バックレ」(しらばっくれるの意)ことは許されなくなり、不慮の事故もなくなり、運行が常時フォローされています。今まで4時に帰庫していた車が、1時に帰庫するようになった事例もあります。

安全運転のためドライバをいちいち呼んで注意するのは大変な作業だと認識しております。ドライバに対し、「お客さんが常にみているよ」という意識の啓蒙(教育)を通じ、(きちんと仕事をするので)「自分の仕事を守る」という自覚をもたせることが重要であります。車載機をつけるだけで異常行動、異常動作の「抑止力」になります。

同時に、動態管理、位置管理のシステムの導入は、配車は本が行うのはあたりまえということになり、こういう仕事振りですよということを営業の際にアピールするようにより本側側の仕事の様態にも変化をもたらしております。単なる「位置情報」より発展させて、二次加工したデータを読めるように考えております。

今後は、位置情報だけでなく、バックモニタに、本社からの情報を文字情報で伝えたり、SRの機能とドッキングしてより進化させてほしいと願っております。



本配車センターとモニタースクリーン



ヒヤリハットを共有し事故防止に役立てよう

今回は、運転中、もう少しのところでも事故になるところだった、危なかった、冷や汗が出たという経験は誰もが持っているものです。そのハットしたりヒヤッとした経験や場所を地図に書き込み。事故防止に生かして行くことが「ヒヤリマップ」活動です。ヒヤリマップは、出来上がった地図をみることで危険を認知し、事故防止に効果があるだけでなく、作成することで、参加者の安全意識の向上に役立ちます。映像と運行データを組み合わせたヒヤリマップを作って見ました。本事例を参考に自社のヒヤリマップを作ってみて下さい。

DVR の映像と SR の運行データを組み合わせて 自社オリジナルのヒヤリマップを作成

左側から車両の割り込みでハット
ブレーキ



合流点で前方車両ブレーキでハットブレーキ

横断自転車に遭遇
ヒヤリブレーキ



自転車の急な飛び出し
にヒヤリブレーキ

ヒヤリマップは、自社で保有している映像と運行データを組み合わせれば、地域別、ルート別、チーム別等管理の視点にあわせて縦横に作れます



(製品紹介・事例紹介) TV放映 (日本テレビ ニュース プラス1)

平成16年3月2日TVで放映された番組内容を誌上に再現しました。ご参考にして下さい。



どのような交通事故が起きたかその瞬間を記録し後から解明できる装置のあることをご存知ですか？ 自動車版フライトレコーダーともいえるこの装置を導入した運送会社では意外な効果がありました

急ブレーキや急ハンドル、衝突の衝撃などクルマに起きた挙動の変化を克明に記録できます

ドライバーがいつどこでどういう運転をしたか、その運転が危ないのか、危くないのかこのユニットだけで計測します



セーフティーレコーダではどこで事故がおきたのか、その時刻や速度などの情報を記録し、事故の前後60秒の映像を記録します。これによりどちらに過失があるのか明確にわかります。仮に運転手の記憶がなかったとしても事故の原因を解明することが可能です

急ブレーキのデータでは前後にかかる重力からブレーキの踏み方が、急ハンドルの場合には横への重力からどちらにハンドルを切ったかが判るのです。この装置によってドライバーがどのような運転をしていたかが判るのです



最近事故をもう一回見直そう、お金の問題だけではなく信用の問題と人的問題が発生していますから会社のステータスを含めて事故軽減をしようという勢いが非常に増えています



社会的に要請されている安全確保に非常に大きな効果があるのではという結論に至って導入いたしました



ダイワ運輸では乗務員に映像を見せることで安全運転の意識付けを徹底させてきました。その結果搭載前に比べると事故の件数は半数近くまで減らすことが出来ました



人間の視野は狭いということを乗員に理解してもらえたと思っています

進化する車載機

セーフティレコーダ変遷 - SR1 ~ SR commまで -

セーフティレコーダの変遷をご紹介します。

SR1 1998年4月発売



このころはカードに記録していました

SR2 1999年3月発売



メモリスティックに記録するようになりました。

SR3 2000年8月発売



拡張性が広がりました

SR100 2001年3月発売



量産タイプになりました

SR comm 発売中



レコーダとセンサが一体型になりました

オプション機能

ポケット専用携帯電話
スイッチボックス
温度センサ
居眠り防止警告音

皆様のご要望に応じた機能拡張に対応いたします。



イベント掲示板



人とくるまのテクノロジー展

パシフィコ横浜
横浜市西区

<http://www.jsae.or.jp/2004expo/index.html>

2004/5/19 ~ 2004/5/21



国際物流総合展2004

東京ビッグサイト(東京国際展示場)
東京都江東区有明

<http://www.logis-tech-tokyo.gr.jp/JP/>

2004/9/14 ~ 2004/9/17

お問い合わせ先

株式会社 データ・テック 担当 山田 美佳

Tel 03(5703)7041 E-mail: sales@datatec.co.jp <http://www.datatec.co.jp>



編集後記

三月の声を聞くと即座に桃の節句、梅だより、春の陽気がそこまで来ております。のどかな日本の春ですが巷には、いろいろ事件が起こっております。目につくのは子供受難の風潮がはびこって痛ましい話があふれていることです。世界に目を向けますと各地でテロが頻発し、一般市民が大勢犠牲になっております。交通事故も被害者にとってはテロに巻き込まれているようなものです。しかしこのテロは、防げるテロですね。本ニュースを編集して関係者の皆さんが事故防止に努力されていることがひしひしと伝わってきます。きっと成果に繋がると確信しております。

発行者 株式会社 データ・テック
〒144-0052 東京都大田区蒲田 4-4-2-12 新生ビル
TEL 03 (5703) 7041

編集者 OFFICE LoMac
〒230-0013 横浜市中区住吉町 3-3-6 第一吉本ビル
TEL 045 (680) 0310